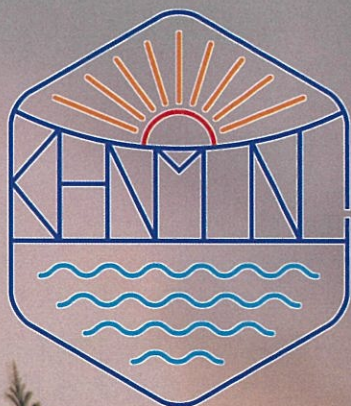


8050問題と 孤独死を 地域でどう防ぐか

関門地域から共助モデルを考える

地域で安心して暮らし続けるために



現代において当事者の高齢化に伴い「親亡き後」への不安が深まり「この子を遺して死ねない」という声が多く寄せられています。だからこそ今、「死ぬまで不安」ではなく「地域に託して安心して暮らせる仕組みづくり」が求められています。本シンポジウムではこれらの問題に光を当て地域を越えての共有、連携を深めていき当事者の声や現場の実態を学び「共助の仕組み」を考えていきます。

参加無料
定員100名

令和7年11月8日(土)

13時—17時 (12時30分開場)

海峡メッセ下関801大会議室にて

01

一柳泰造氏による講演
「孤独死の現場と障がい者の問題の関連について」

02

各地域のビジョン

①北九州市の取り組み

②下関市の取り組み

田津真一(北九州市保健福祉局地域共生社会推進部地域福祉推進課長)

大石貴之(下関市福祉部福祉政策課重層的支援推進担当課長)

03

パネルディスカッション

【地域で安心して暮らし続けるための仕組みをつくる】

登壇者:岸田あすか(NPO法人シンフォニーネット理事長)

一柳泰造(一般社団法人障がい者によるSDGs代表理事)

佐藤正昭(日本文理大学教授)/田津真一/大石貴之/当事者1名(予定)

コーディネーター:市丸裕也(北九州市立大学 地域創生学群)

8050問題とは

80代の親が50代の子供の生活の世話をすることへの経済的・精神的負担があるという社会問題。

背景には子供の引きこもり、障がい者である子の高齢化などがある。

